

## タイ王室による人々と文化の保護

王妃陛下による農村の貧しい人々の擁護と伝統工芸の保護と振興にまつわる話は、実質的に統治の始まりにまで遡ることができ、プミポン・アドゥンヤデート国王陛下とシリキット王妃陛下により理解され実践されている君主制の本質的な概念を明確に示すものであります。

王位にお就きになった数年後の1955年、国王陛下は王妃陛下を伴われて、タイ王国の中で最も忘れ去られ貧しい地域であるタイ東北部へ22日間の遠征をされました。ほとんどの者がタイ王国の君主を実際に見たことがなかったため、人々は両陛下に敬意を表するため群れをなして集まりました。

この遠征がその後の統治の様式を形作ることとなり、国王陛下は毎年1年に7-8ヶ月はバンコクを離れ、国の色々な地域を訪れています。こういった地方への遠征は王妃陛下もご一緒されることが常であり、単なる広報活動というよりは実際的な目的を達するためのものであります。大変教養の豊かな方であられるプミポン国王陛下は、貧困を撲滅し国の成長を高めるための、特に農業に関連する開発計画の開始と促進に直接的に関わっておられます。

こういった活動において国王陛下はシリキット王妃陛下に大変支えられています。王妃陛下は1979年のインタビューにおいて、「貧困を撲滅できない限りは、国に平和をもたらすこともできないし、政府を支援することもできないのです。」と述べられています。

個人的に科学技術の分野に興味がおありであるプミポン国王陛下は、灌漑や作物代替プログラムといった広範囲の開発計画に専念されています。こうした国王陛下のご努力を完全に補完するかのようになり、王妃陛下は家族、とりわけ農村女性の役割に専心しておられます。タイの女性は昔から様々な手工芸に熟達しており、家族の衣服を織るといったことが最も典型的な例であるといえます。家族という単位と手工芸品の生産は歴史的に見て相伴うものであり、過去に役に立ったものは現在でも役立つということを見てとったのは、シリキット王妃陛下の類まれな才能であるといえます。王妃陛下は多様な開発計画を通して支援をされていますが、伝統的な技術・手工芸の振興こそが最も典型的な努力であるといえます。伝統工芸を復興させるための方法を農村の貧しい人々に提供することで、王妃陛下は家族が貴重な副収入源を確保しそして同時に消え去っていたであろう長く受け継がれてきた手工芸を甦らせる方法をお見せになったのです。

シリキット王妃陛下が地域固有の手工芸に関わるようになったのは1970年代の初めまで遡ります。当時、タイの東北部を大きな洪水が襲い、作物を全滅させ広範囲に渡り不幸と損失をもたらしました。両陛下は被害地域を訪れ、洪水の被害者達に当面の救済に必要な物資や食料をお与えになりました。しかし、この悲劇は長い間王妃陛下の心の中に残り消えることはありませんでした。

農村の貧しい人々の長期的な利益のために、王妃陛下はあるチームに東北部の村々を訪れさせて、その地域の伝統品である美しいマットミーの絞り染めの絹をより多く生産するように伝えさせました。地元の手工芸品の復興により、農村地域での生活を補う副収入をもたらすことができるかもしれない、というお考えからでした。これが今日効果的に実施されている SUPPORT プロジェクトの始まりでした。

公式名を「副業と関連技術振興のための基金」という SUPPORT は、1976年7月に王妃陛下により個人的に設立されました。王室の関係者は「王妃陛下は貧しい農家のために副収入を提供する仕事を作り出すことで、彼らが借金の重荷により農地から追われることを防ぎたかったのです。」と述べました。「王妃陛下は、米の生産国であるタイが工業化によって農地を失ってしまうことを懸念されました。王妃陛下は国を養うため、そして剰余分は輸出するため、人々が食料の生産を継続的に行うことを望んでおられました。」

SUPPORT のもうひとつの重要な目的は、廃れる危機に瀕しているタイの伝統工芸を復興し守ることです。東北地方の有名なマットミー絹の他にも、プレーワーという刺繍を施された絹、繊細なヤン・リーパオのかご細工、ニエロ細工、そしてクラムとして知られる複雑に金銀で装飾されたはめ込み細工などが含まれています。全体で26の手工芸が対象とされ、すべてのものが多大な技術・時間・忍耐を必要とするだけでなく、実践する人がほとんどいない、という問題を抱えていました。例えば、はめ込み細工のクラムは国全体でたった1人の先生しか残っておらず、完全に消え去ってしまう危機にありました。

農村の貧しい人々を助け、伝統工芸を守るという2つの目的を達成するため、王妃陛下はバンコクのチッタダー宮殿に訓練所を設けて SUPPORT を始められました。訓練生を選ぶために、王妃陛下は自ら貧しい家族にインタビューされました。訓練生は自ら選んだ手工芸の訓練を受ける間、手当てと賄い付きの住まいが与えられます。刺繍や造花の製作といった幾つかの活動は、技術を習得するために2-3ヶ月かかりますが、他のもの、例えばニエロ細工は、訓練は3年にも渡ります。コース終了時には最も優秀な生徒達が次に先生になるように言われ、こうして次の世代へと技術が確実に受け継がれるようにしています。

SUPPORT プログラムは成功し、今ではほぼ全地域に訓練所があります。一番大きいチッタダー宮殿の訓練所は、1 回に最高 500 人の訓練生を受け入れることができます。訓練を受けなければ教育のないままであったであろう農村の労働者や山岳民族で、このプログラムを卒業した人の数は今日までで 50,000 人を超えています。

包括的なプログラムである SUPPORT は、訓練と生産をマーケティングとプロモーションによって引き続き支援します。完成品は適正価格で購入され、基金のチッタダー・ショップや他の非営利団体を通して販売されます。実際、この活動は慈善的な性格を持つものではなく、実用的な理念に基づいて行われているのです。王妃陛下のお言葉によれば、「村の人達に何かを作るよう勧める前に、慈善目的だけでなく商品として価値があるかどうかを確かめなくてはなりません。慈善のための商品は本当の支援になりません。自分達で自立できるようにしなければならないのです。」

あるコメンテーターは、王妃陛下について「SUPPORT の単なる表看板ではなく、積極的な総裁である。陛下はすべての商品を検査し、基準に満たない場合には批評をされる。量より質を重んじられるのだ。」と述べています。

これが SUPPORT の大きな成功の鍵であるといえます。基金の活動はこの上なく実用的なものです。村人達は手工芸のための伝統工芸品を製作するというよりは（染色技術の保存も活動のひとつではありますが）、シリキット王妃陛下のご尽力によりこれらの手工芸品が商品価値を持つということが示されたため製作方法を学んでいるのです。

実際王妃陛下は SUPPORT の良い顧客であり、タイ王国を訪問される国家元首に手工芸品をお土産として差し上げられています。さらに王妃陛下は、伝統工芸品が実用的な役割を果たすことができる、ということをご自身で証明されています。例えば、王妃陛下がバルマン・ハウスのエリック・モーテンソンに依頼して特別にデザインされた衣装をマットミー絹で作ることが、この素材の非常に良い宣伝となったのです。

手工芸品の人気を広め、そして市場性を拡大していくことにおいてシリキット王妃陛下が果たされた役割は、様々なプロジェクトを始める時と同様極めて重要なものでした。王妃陛下はタイの女性のための民族衣装のデザインに関してアドバイスを与え、マットミー絹と綿だけでなく山岳民族の刺繍やチョコ織（縫取り織）、錦織などその他の伝統的な素材もご自身の衣服に使われました。

アクセサリーもまた、王妃陛下が今日のファッションにどのように合わせるができるかを示されることで普及していきました。最も顕著な例は、タイ南部に伝わるヤン・リーパオの茎を使った織物です。ボール、トレイ、ビンロウの実を入れる箱、

茶筒など様々な耐久性の家庭用品を、黒や茶色の茎を持つこの植物から作ることができますが、今日において最も良く知られているのは精巧で驚くほど珍しいハンドバッグです。

シリキット王妃がヤン・リーパオに最初にご関心を持たれたのは、数年前身体障害者により製作された緻密な織物の展示会に足を運ばれた時でした。王妃陛下はそこでご覧になられたものに感銘を受け、ヤン・リーパオの織物とその技術を教える計画の先頭に立たれたのでした。その時以来、それ自体でも素晴らしく、また伝統的なタイの素材を使った衣服を完璧に引き立たせる、魅力的なアクセサリとして王妃陛下がご自身で例を示されたこともあり、ヤン・リーパオのハンドバッグの人気は急上昇しました。

王妃陛下のご努力と **SUPPORT** 基金の継続的な活動の結果は、伝統工芸の復興と新しいファッションの創造という点のみに見られるわけではありません。こうした様々な手工芸の訓練を受けた農村の貧しい人々の収入は倍増し、自立を支え、自然の気まぐれに左右される農業への依存から解放される手段を提供しました。

これらの活動は継続されるだけでなく、新しい分野へも拡大しています。タイの技巧・手工芸を保存するための努力は基金の基礎ですが、現在では基金の支援・関心は、医療から土地の管理、天然資源のより賢明な使用まで農村生活のすべての分野にまで向けられています。

ご自身の活動が認められ、シリキット王妃陛下は様々な名高い国際的な賞をお受けになりました。その中のひとつである 1979 年の国連食料機関のセレス勲章は、恐らく最も素晴らしく真実の賞賛を表すものであると言えます。その賞によれば、王妃陛下は農村社会が「日々の生活を見直し、そして自分達自身の労働の成果から利益を得られるよう」支援されたのです。

また、農村の貧しい人々を助け、そして彼らの労働の産物を振興することで、王妃陛下は数え切れない人々にタイの手工芸品の豊かな種類と限りない美しさを再発見する喜びもお与えになったと言えるでしょう。